

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894200013		
法人名	有限会社 スズシヨウ		
事業所名	グループホーム「えがお」 ユニット温		
所在地	茨城県結城郡八千代町蒔田161番地10		
自己評価作成日	2020年8月14日	評価結果市町村受理日	2020年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JirgvsyoCd=0894200013-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方々が出来ただけ自分の家と同じような環境で生活できるようにしています。施設の敷地内に畑があり、収穫の楽しみ等もあります。食事についても栄養士が個人々の状態に合わせた調理法で食事の楽しみも大切にしています。今年はコロナウイルスの感染予防のため行事については今の所見合わせています。主治医による訪問診療、訪問薬剤師との連携、看護師による健康管理で利用者の方々が安心、安全な生活が継続できる様にしています。ご家族の意向に配慮したターミナルケアも取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然が広がり、晴れた日には筑波山も見える広い敷地のホームである。今年はコロナ禍の為、地域との交流を中断しているが、農園を手伝う近所の方々とは、距離を保って挨拶を交わすなどのやりとりができています。意欲的にコロナ対策に取り組み、事務所内やリビングなどにアクリル板が設置してある。行政からの補助を利用してタブレットを購入し、時代の変化にも対応できるように準備している。職員はテーブルのアクリル板を利用したボール遊びを考案するなど、いつもと違う発想で取り組んでいる。今年は初めて米作りに挑戦。収穫の時期を迎え、手でもみを殻を外したり、一升瓶でもみすりをした。昔を思い出し、会話が弾んだという。オーナーは職員の発想力を評価し『社長賞』を設け、無記名での企画提案応募を促している。
*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念の読み上げ、命令口調等の禁止用語の確認、実践につなげている。	朝礼で読み上げて確認しているが、今年は感染対策を考慮し、変更している。基本理念・実践理念・具体的理念と3つに分け、わかりやすい。その他、ホーム内の目につきやすい場所に格言が貼られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルスの感染予防のため行事は控えている。	畑の植え付けなどを近所の方が手伝ってくれ、その様子をベランダから眺めている。今年は稲作に挑戦し、刈り取りや糶摺りなど、職員が利用者に教わりながら行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの予防のため、行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、(えがお)に対する意見を頂いたり行政の意見や相談、地域からの意見や相談など意見交換している。	テーブルにアクリル板を設置し、席を離してマスクを着用して、委員の理解と協力を得ながら開催した。最近の話題では、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の症状の違いなどがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加など、日ごろからの連携を密にしている。	運営委員会には役場の担当者の出席もあり。アルコール消毒液などの感染予防関連用品は、行政の補助もあり助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の取組みの整備、周知、研修などを行っている。	身体拘束の定義をA3版で作し、見えるところに掲示していつでも確認できるようにしている。やむを得ない場合は、家族に身体拘束に関する説明をし、同意をもらっている。現在、車いすのベルト使用者がいるが、経過をミーティングで報告して話し合い、全員で周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、社外研修などで意識を高め、防止に努めている。朝礼時に尊厳を傷つける言葉の禁止や上から目線の言葉の使用を禁止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外研修など学び、必要時の支援ができるようにつとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ見学して頂き、理解、納得できるよう説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口、電話等で随時意見を受けているまた、支払いを現金にし、すくなくとも月に一回以上面談する機会を作っている。	利用料金は直接支払いに来てもらい、家族の意見を聞き、利用者と家族が関わりを持つ機会にもなっている。利用者のマスク着用は難しいが、職員は着用必須とし、面会は居室で短時間という条件で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、会議、業務改善提案書など様な機械を設け意見を抽出しやすくしている。	課題があれば全員で話し合う。頑張っている人には『社長賞』が授与され評価される。職員の入退職が多かった時期に無記名でアンケートを実施し、意見をもらったことがある。現在はなんでも相談できる職場環境であり、課題への対応も早い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情や要望などを聞きながら、働きやすい環境・シフト等を考慮し、努力や協力を適切に反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の充実を図り、希望を加味しながら社外研修の機会の提案などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの予防のため、行われていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調で十分に要望などを把握し、入居後も注意深く関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と必要としている支援を共に話し合い、見極め初期段階のサービスを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする大切な一員として、人生の先輩として尊厳ある支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事はコロナウイルスの予防のため、自粛している。月の支払いは現金にして面会の機会を作るなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの感染予防上、家族以外の方の面会は極力控えていただくようにしている。	家族以外の知人から訪問希望の連絡を受けることもあるが、その時の状態を考慮しながら面会をしていただく。隣接するデイサービスの利用者と同様、将棋を指すことを楽しみにしている方がいる。希望があれば、電話の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に応じた様々な性格の方がおられるので孤立せずともに暮らす仲間となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも気軽に相談に乗っている。他施設入所等時は不安なく移動できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握するようにしている。	直接本人に意向を確かめ「ここでのんびり過ごしたい」等、はっきり答えることができる方もいるが、曖昧な返答の方が多い。意思表示が難しい方は、日ごろの行動や表情を参考にして意向を把握する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	適切に把握し職員間で共有できる様努めている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適切に把握し、有する能力などを活用できるように努めている。。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を理解し関係者の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	プランの更新時期に担当者会議を行う。チェック項目を毎月確認してモニタリング表を作成。ケアチェック表は、一日を通してケアした人が記入する。体調など気になる事があれば別ノートに記録し、往診時に医師に相談する。別ノートは利用者毎にあり、医師・薬剤師・職員が記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、朝礼、夕礼時のミニカンファ、看護職員とケアマネ及び計画作成担当者の密な連携による共有、実践、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況やニーズ随時対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防、学校、警察などに協力を依頼している。ボランティアの希望も多く、積極的に受け入れている。本年はコロナウイルスのため行事は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療、必要時の電話相談や往診で適切な医療が受けられている。納得した治療方針となるよう、連携ノートの活用や適宜ムンテラを行っている。	毎週水曜日に往診がある。4つのグループに分かれ、2週間に1回又は4週間に1回診てもらう。往診時には薬剤師も同行し、後で薬を届けてくれる。往診時の記録は申し送りノートにも記載し、確認後はサインをして全員が周知できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の他、常勤の看護職員がおり、日常的に連携できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が医療機関と密に連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の意向の確認、事象発生時のムンテラ、意向の確認など十分に話し合い、方針を決定・共有している。	看取り介護に関する同意書あり。今年1月と3月に看取りをした。終末期には、看護師から呼吸などの観察事項等が伝えられ看取りに備える。オーナーの方針で、グループホームではあるが看護師を配置しており、家族も職員も安心できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的な指導、研修など実践力の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練の実施を定期に行い、運営推進会議で地域への協力を依頼している。	ホームのある地域は自然災害の心配もなく、恵まれた地域。火災発生時の避難訓練は春・秋に実施。秋は消防署の協力が得られる。玄関前の非常口付近に、緊急車両用に駐車スペースを設けた。備蓄あり。断水時には井戸水に切り替えが出来る。オーナーが地元出身であることから、地域の協力体制も得られやすく、整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(介護職員の言葉使い)を朝礼で読み上げ、常に意識を高めるようにしている。	一人一人の尊厳という意味合いから『職員内禁止用語』をA3用紙に印刷し、ラミネート加工して掲示。普段、つい出てしまいがちな言葉を具体的に書いた『禁止用語リスト』も作成し、目につくところに表示し、朝礼でも確認する。命令口調・上から目線・脅し文句・尊厳を傷つける・職務放棄などがリストに載っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一法的でなく利用者の希望や意識を確認するよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日を穏やかにゆったりとすごしていただくように心かけている。。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服の確認や訪問理美容では本人の意見を尊重するなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜を中心に地元のメニューを取り入れている。	献立と食材は業者に委託し、栄養士・調理員が事業所の台所で調理をする。時折オリジナルのものも加えている。畑で収穫した旬の野菜も使用。おやつに手作り饅頭やすいとんを楽しむ。現在、イベント食を中断しているが、利用者からの希望で寿司を取り寄せ、利用者はとても満足した様子だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた調理法で食事の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、一人一人の状態に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は特に、できるだけトイレで排泄できるように本人の能力を活用し支援している。	見守り程度の方や、何らかの介助が必要な方、それぞれ時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの排泄を基本としている。自立の方は各ユニット1名程度で、昼夜おむつの方もいる。トイレトーパー収集癖の方がいるので、それとなく注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活上運動や、繊維室の物を摂取できるようにし、便秘薬以外の方法をとるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保持できる様、声掛け意向の確認した上で、週2回の入浴を支援している。	入浴は最低でも週2回。拒否がある方は時間や日にちをずらしながら、タイミングを見計らって入浴する。ゆず湯、しょうぶ湯もある。脱衣室にはベッドがあり、オムツ使用の方も楽に着替えができる。準備は前日に職員と一緒にいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や希望に応じて、ゆっくり休息したり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が適宜指導しながら職員間で共有し、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の経験のある方も多く、畑の収穫を楽しんだり、畑を眺めてお茶を飲んだり、収穫した物を口にしたり支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出の機会が得られるよう働きかけたり、施設敷地内の散策など戸外を楽しめるよう支援している。	ホールには広いテラスがあり、テーブルを出して花見をしながら弁当を食べることができる。桜の時期は敷地内の桜を見て楽しんでいる。テラスから自由に外へ出ることができ、車椅子でも出ることができることから、晴れた日には敷地内の散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態に応じ所持や管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りに希望時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安にならず、刺激にならないよう、また、なじみの物を配置して心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁には季節毎の飾りつけがされ、毎年、秋まつりに出展する作品も飾っているが、今年は秋まつりが中止となり利用者は残念がっている。近所の方が書いた四季折々の絵手紙が廊下に飾られ、目を楽しませている。また、職員が描いた利用者の似顔絵も目を引く。廊下の所々に備え付けの長椅子があり、座って会話を楽しむ光景がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓際、デッキなど共用空間だが、個々の過ごし方ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、写真など心地よく暮らせるような工夫をしている。	入口には靴を入れる棚が設置され、一畳程度の収納がある。布団などのリネン類の洗濯は業者委託。仏壇やテーブル、椅子、テレビ、引き出しなど持ち込み、家族の写真や位牌、動物の写真、カレンダー、時計、手作りの飾り物などで落ち着ける空間になっている。トイレ付の部屋が各ユニットに1つずつある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居されている方々が出来る事ややれそうな事の継続を図り、励ましや働きかけで生活意欲を向上させ自立支援を支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームえがお

目標達成計画

作成日: 2020年12月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	コロナウイルスの蔓延している現在入居者の方々に感染させないようにする。	入居されている高齢の方は基礎疾患があるのでウイルスに感染させないようにする。	外部の方の面会禁止、ご家族の面会も玄関で手指の小毒、マスクの着用、利用者自室での面会、体温の測定、他の利用者との接触をさせない、施設の職員の徹底した健康管理、換気、乾燥を防ぐ、職員は出勤時体温測定、マスクの着用、手洗い、うがい、勤務外での3蜜を避ける、他人数での飲食禁止。	9か月
2	48	コロナウイルス蔓延の影響で様々な行事や面会交流も制限されている。閉塞感を取り除き、生活意欲の向上を図る。	入居の方々の日々の生活が明るく、安心した日常が継続できる。	コロナウイルスの影響で様々な行事や慰問が中止となる中、入居者の皆様の生活に潤いと質の向上のため職員一同で余暇時間などの充実を図っている。笛吹、変わりボウル投げ、パズル、本の朗読など	9か月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。